

## 2017(H29)シカ年度 エゾシカ個体数モニタリング実施結果

1. 航空カウント調査（環境省事業）
2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）
3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）
4. ルシャ地区エゾシカ行動圏調査（環境省事業）

## 1. 航空カウント調査（環境省事業）

### 【概要】

- ・知床半島の世界遺産地域内の航空カウント調査区(U-01～06, 11～13, 13s; 図 5-2-1)において、シカの航空カウント調査を 2018 年 3 月 6 日～3 月 11 日の期間中に 4 日間実施。計 92 群 659 頭を確認。
- ・前年の同一エリアにおける結果 (139 群 747 頭) と比較し、88 頭 (11.8%) 減少。
- ・各地区 (モニタリングユニットによる区分 : 図 5-2-2) における発見密度は、岬東側地区が最高 (15.8 頭/km<sup>2</sup>)、次いでルシャ地区 (13.1 頭/km<sup>2</sup>)、知床岬地区 (12.4 頭/km<sup>2</sup>) の順。
- ・個体数調整事業の実施地区の中で、航空カウント発見密度の目標値 (通常 5 頭/km<sup>2</sup>以下、知床岬のみ 5-10 頭/km<sup>2</sup>以下) 未達成は知床岬地区のみ。

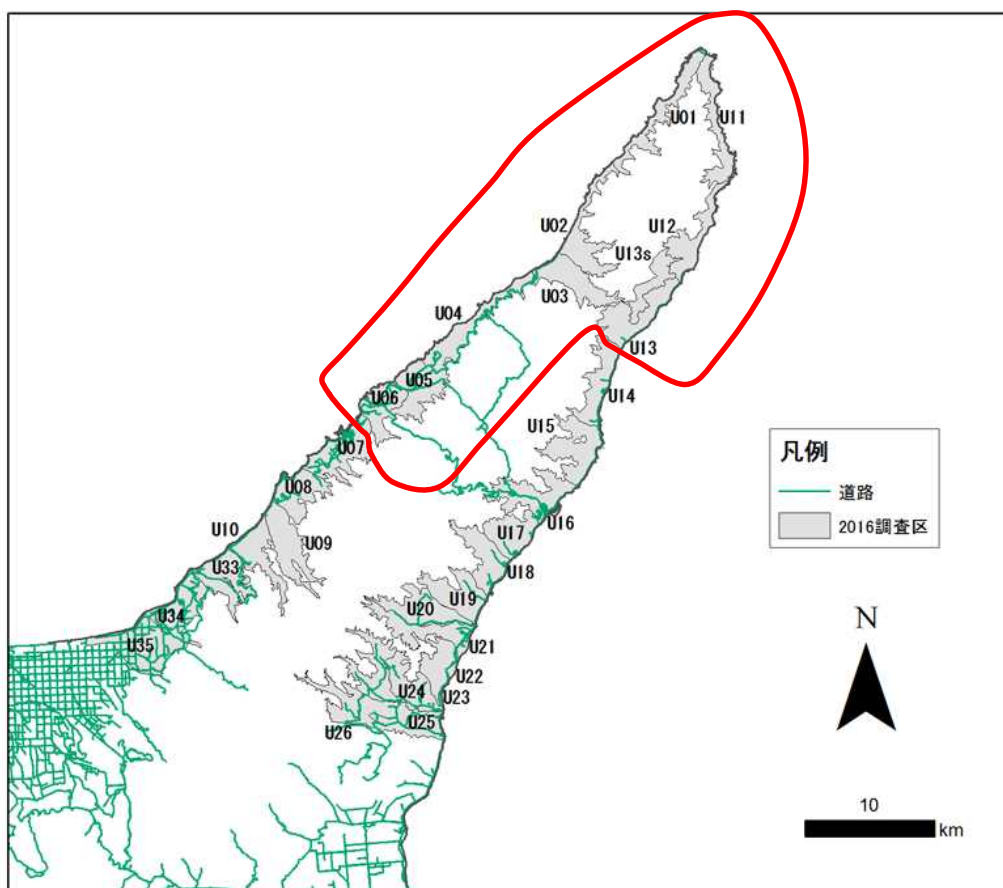


図 5-2-1. 2018 年に実施した知床半島エゾシカ航空カウントの調査区、計 10 区画の位置(2016 年の広域調査実施地区のうち、赤線で囲んだ部分)。標高 300m 以下の標準調査区 9 区画(U-01～06, 11～13), 標高 300m～500m の高標高調査区を 1 区画(U-13s)。

※飛行ルートや航続距離を考慮して設計された、従来の航空カウント調査区に基づいた地区区分では、捕獲や植生調査を実際に行っているエリアやシカの主要越冬地の面積と、各地区の面積との間に不一致が生じていた。そのため、2016年にエゾシカの調査、捕獲および植生調査に係る関係者が協議し、境界線を修正したモニタリングユニット(図5-2-2)が新たに設定された。

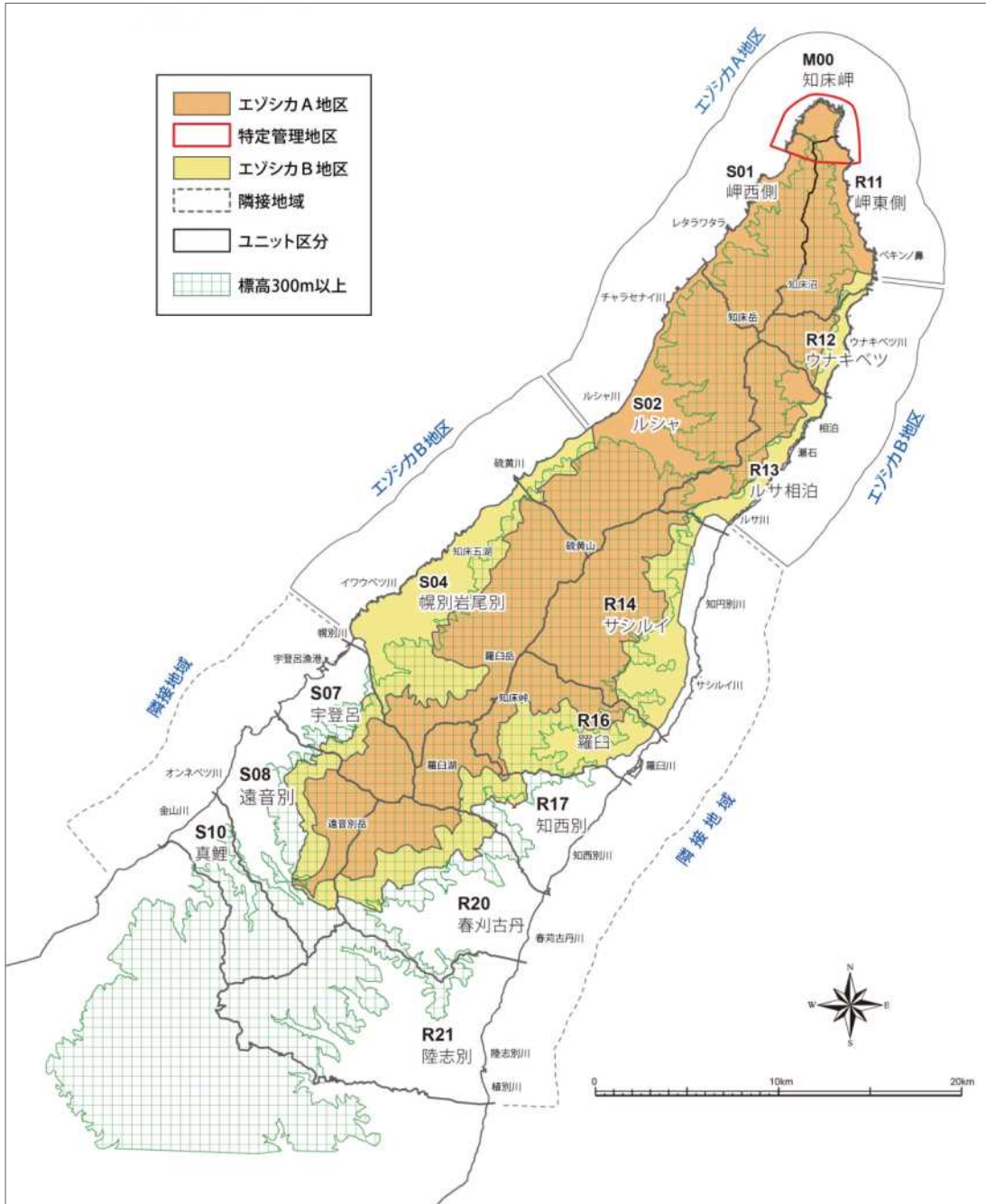


図5-2-2. 知床半島におけるエゾシカの個体群管理および植生モニタリングに対応したモニタリングユニットの区分図. M00, R11, S02などがモニタリングユニット名.

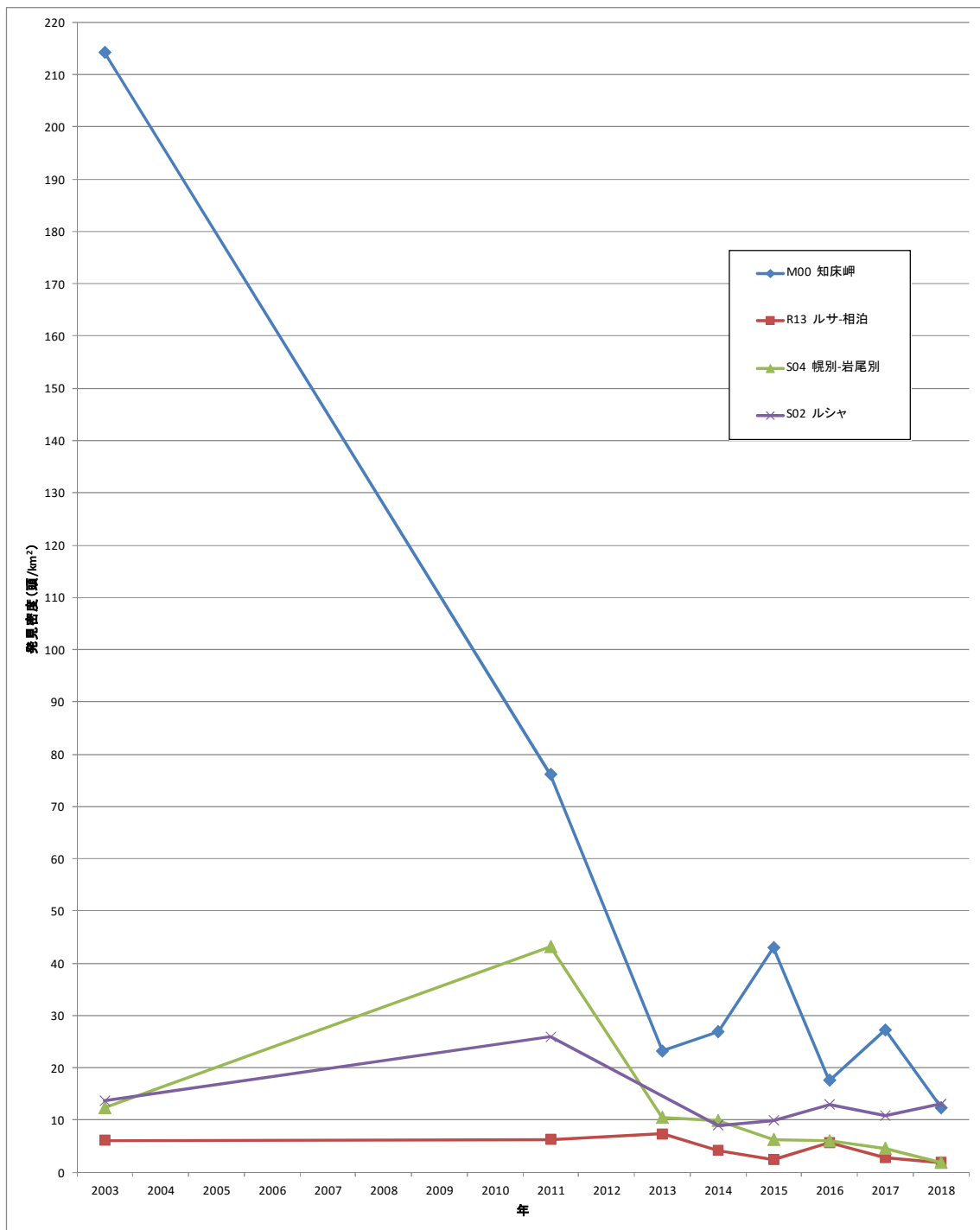


図 5-2-3. 遺産地域内の主要越冬地 4 ヲ所(モニタリングユニットによる区分)における、航空カウント調査によるシカ発見密度の経年変化

表 5-2-1. 遺産地域内の全モニタリングユニットにおける 2018 年の航空カウント調査結果

モニタリング ユニット名	うち航空 調査実施 面積 (km <sup>2</sup> )	2018年3月調査		捕獲圧 の有無
		発見数 (頭)	発見密度 (頭/km <sup>2</sup> )	
M00 知床岬	3.23	40	12.38	あり
R13 ルサ-相泊	24.68	48	1.94	あり
S04 幌別-岩尾別	29.08	56	1.93	あり
S02 ルシャ	25.46	333	13.08	なし
R11 岬東側	8.75	138	15.77	なし
R12 ウナキベツ	4.51	27	5.99	あり
S01 岬西側	8.33	17	2.04	なし
合計	104.04	659	6.33	

\*R12 ウナキベツ地区において捕獲圧が存在したのは 2017 年のみ.

## 2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）

### <2-1. ルサー相泊地区>

- ・1998～2008年は月1回、通年で実施。
- ・2009年以降、春と秋に各時期5日間集中で実施する方式に変更。調査コースは道路沿いの10.2km区間で変わらず。
- ・2016年夏に調査区間で土砂崩れが発生して通行止めとなったため、2016年秋期は調査中止（断念）、2017年春期は調査コースを4kmに短縮して実施。
- ・2017年秋期：全ルート（10.2km）実施再開。
- ・2018年春期は4/25～29の5日間連続で調査し、発見頭数72頭、密度指標値7.1頭/km、100メス比18.1であった（いずれも5回分の平均値）。発見頭数の日別最大値は78頭/10.2km。

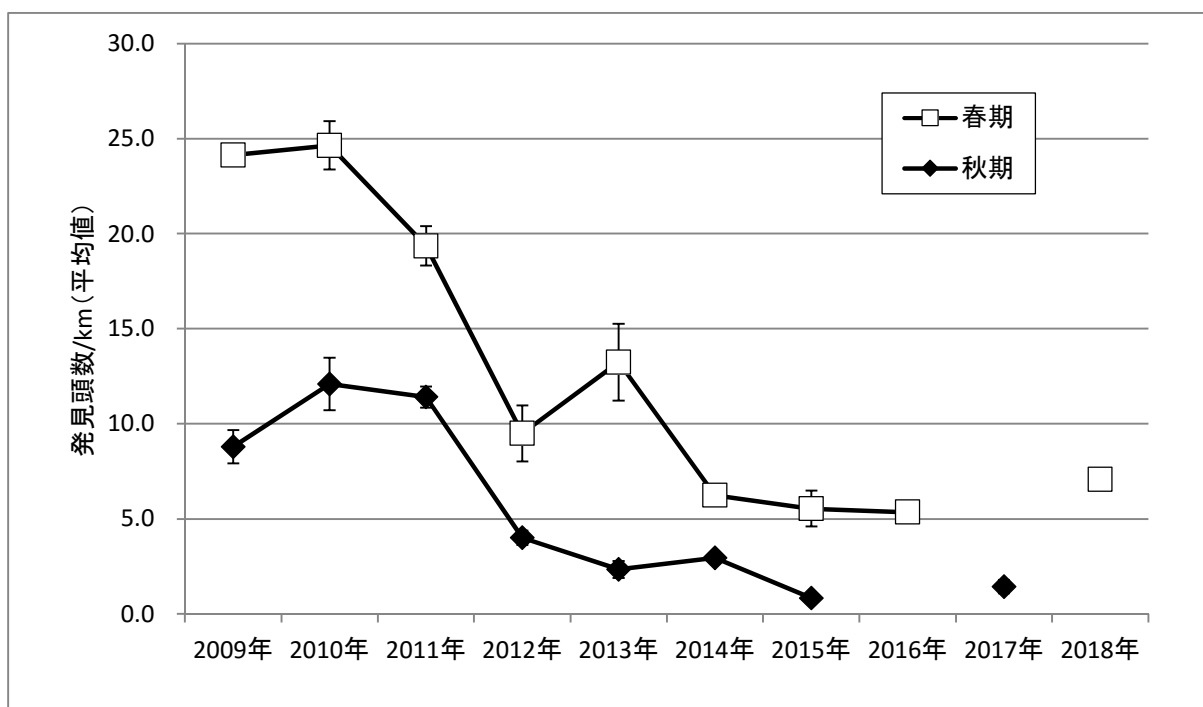


図 5-2-4. ルサー相泊地区のライトセンサス結果の経年変化  
(調査各5回分の平均値±標準誤差)

※ルサー相泊地区では、2009（H21）シカ年度からエゾシカの捕獲手法検討調査、2012シカ年度から密度操作実験、2015シカ年度から個体数調整事業が実施されている。

### <2-2. 幌別ー岩尾別地区>

- ・1980年代末より春と秋に継続して複数回、幌別コース（調査距離4.9km）および岩尾別コース（同4.5km）の2コースで実施。

- 2018年春期（4/26～30）は、両コースとも前年から横ばい。最大発見頭数は幌別 42 頭（前年 46 頭）、岩尾別 18 頭（前年 23 頭）。  
密度指標値（平均）は幌別 6.9 頭/km（前年 6.7 頭/km）、岩尾別 3.3 頭/km（前年 3.3 頭/km）（図 5-2-5）。
- 2018 春の 100 メス比（平均）は幌別 31.1（昨年 25.0）、岩尾別 17.6（昨年 24.0）。

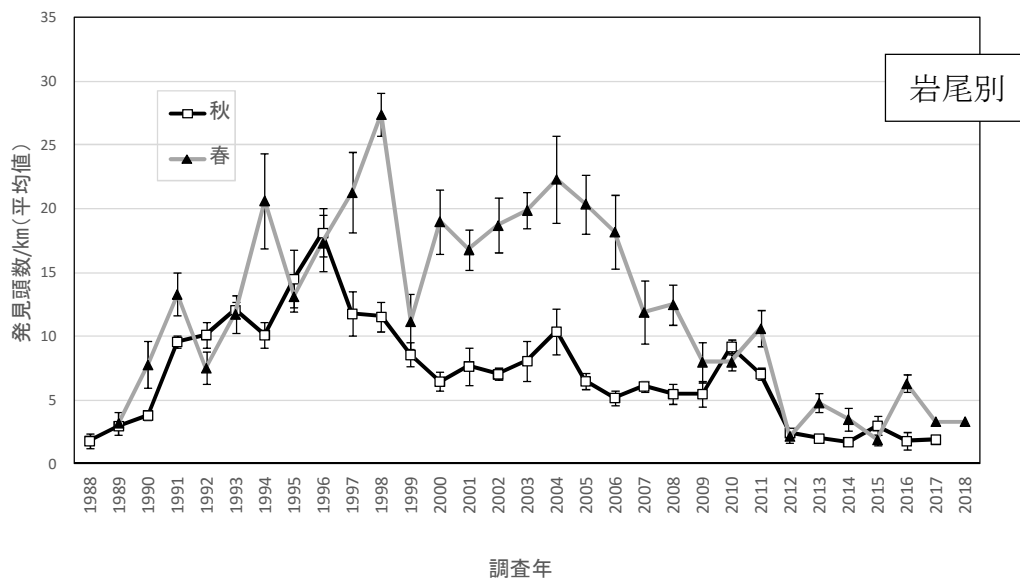
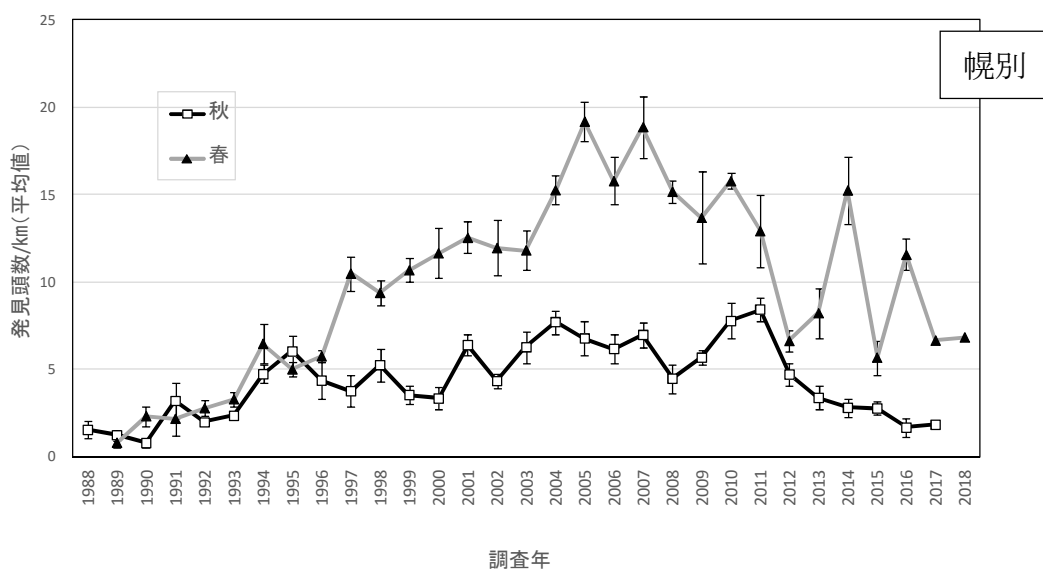


図 5-2-5. 幌別-岩尾別地区のスポットライトセンサス結果(春 1989～2018, 秋 1988～2017)  
(数値は平均値±標準誤差)

### 3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

- 斜里町側隣接地域の三段の滝（オショコマナイ川）～オチカバケ川の国道 334 号

沿い、延長約 12 km において、越冬期のエゾシカの日中カウント調査を 2008 年 1 月（H19 シカ年度）より実施。

- 国指定知床鳥獣保護区内に相当する区間（三段の滝～オペケプ川）の調査距離が 3.5km、鳥獣保護区外（オペケプ川～オチカバケ川）が 8.5 km。
- 基本的に天候の良い日の午後に、国道沿い斜面等にいるエゾシカを低速で走行する車内よりカウント。2018 年 1 月から 3 月までの期間に計 6 回実施。調査は基本的に可猟期間外（狩猟中断期間含む）に実施した。
- 最大発見頭数は 40 頭（2018 年 3 月 18 日）（前年 121 頭；3 月 26 日）。密度指標値は 3.3 頭/km（前年 10.1 頭/km）。
- 確認頭数が H24（2012）シカ年度以降 6 年連続で減少。

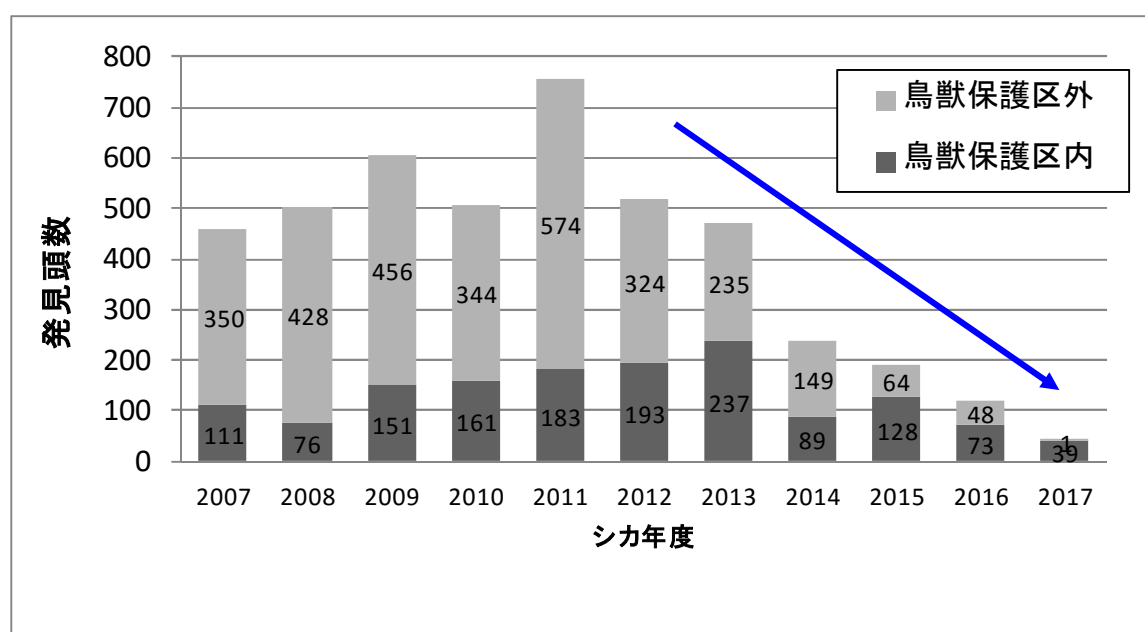


図 5-2-6. 斜里町オシンコシン～真鯉地区の日中ロードサイドカウントにおけるシカ年度別最大確認頭数の年次推移(2007～2017 シカ年度).



#### 4. ルシャ地区エゾシカ行動圏調査（環境省事業）

- ・斜里町ルシャ地区において、エゾシカのメス成獣 14 頭に GPS テレメトリー首輪を装着し、行動追跡を実施。ただし 2 頭については 2017 年に首輪が脱落。
- ・2014 年 6 月の装着から 2018 年 4 月までの期間、いずれの個体についても、夏の生息地と越冬地が異なる、すなわち季節移動をする個体は確認できなかった。なお、出産期の 6 月に、羅臼町のルサー相泊地区まで一時的に移動した個体が 2 頭確認された。
- ・出産期である 6～7 月を除くと、各個体の月別行動圏面積は 0.1～2.7 km<sup>2</sup> であり、ごく狭い範囲の食物資源に依存して通年生活していることが明らかとなった。

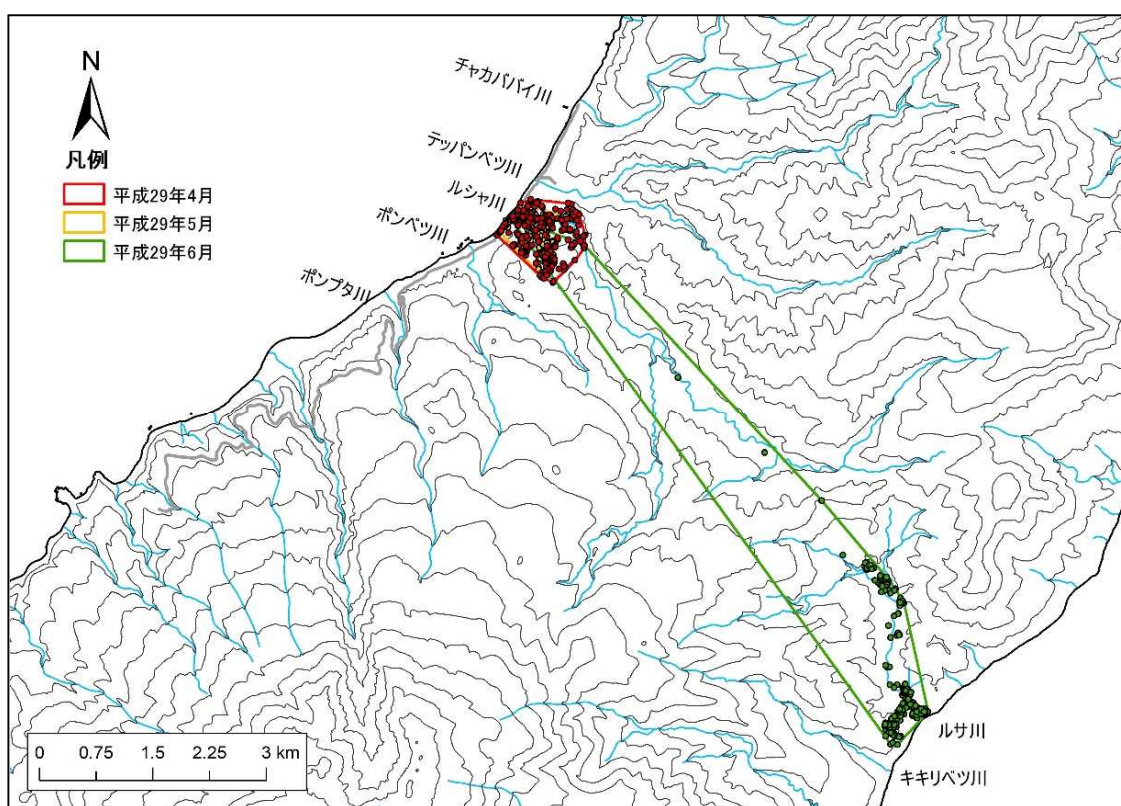


図 5-2-7. 出産期に一時的に大きく移動した個体(14AD07)の測位ポイントと行動圏(2017 年 4～6 月)。  
14AD07 は 2015 年および 2016 年においても同様の行動が見られた。

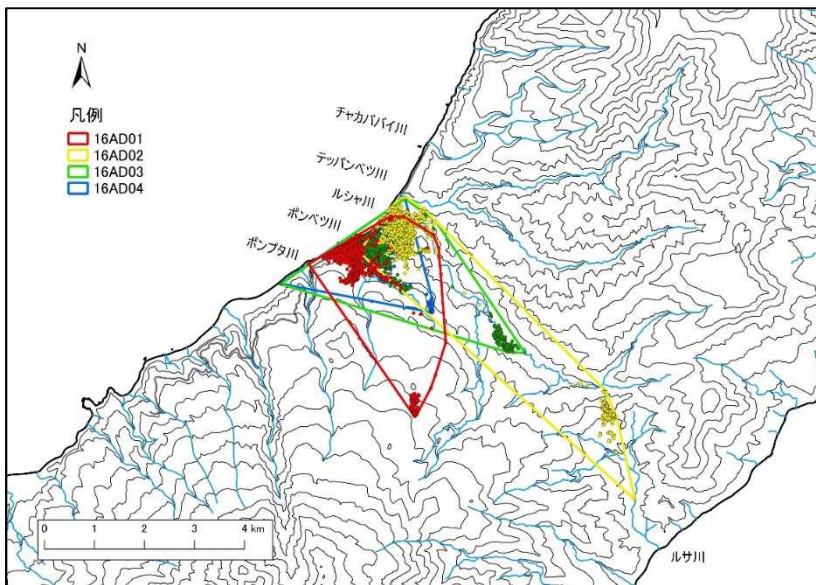


図 5-2-8. 16AD01~16AD04 の測位ポイントと行動圏(2017年1~6月)

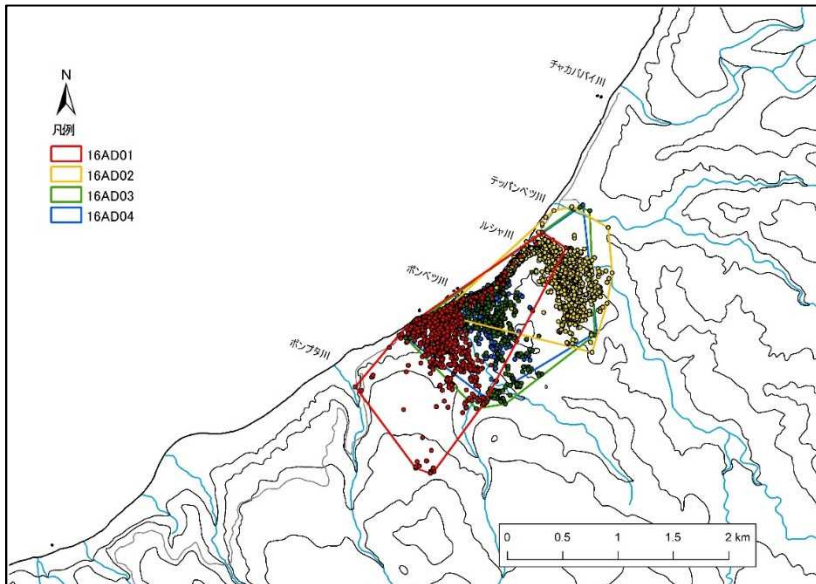


図 5-2-9. 16AD01~16AD04 の測位ポイントと行動圏(2017年7~9月)

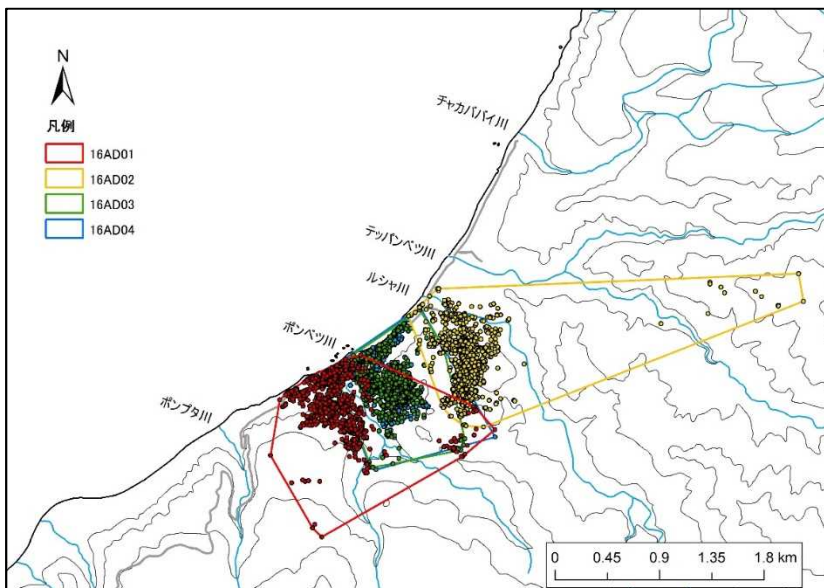


図 5-2-10. 16AD01~16AD04 の測位ポイントと行動圏(2017年10~12月)